

平成 27 年度 第 3 回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成 27 年 11 月 9 日（月）朝霞市 産業文化センター 集会室・会議室 第三

項目	内容
I. 議事	
1. 平成 27 年度第 2 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨	平成 27 年度第 2 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨が承認された。
2. 第 11 回川でつながる発表会について	第 11 回川でつながる発表会のコメンテーター、プログラム、企画内容について、連絡会メンバーによる意見交換が行われた。 ■決まったこと ・発表会当日に 2 階の展示スペースで不老川流域川づくり市民の会が開催している「入曾用水（こかわ）に関する展示コーナー」との連携を図る。 ・現地見学会は、還流水の吐口を見学ポイントに追加したルートで承認された。 ・「不老川のうた」は、団体との調整次第で、ビデオや音声をういた代替の交流会企画を検討する。 ・発表会のコメンテーターについて、前半は、「NPO 法人エコシティ志木」「川越環境ネット」後半は、「不老川流域川づくり市民の会」が担当する。 ・コメンテーターには、後日、座席等の案内文書を事務局より送付する。
II. 勉強会	
法政大学水文地理学研究室より、「水の自分誌から流域の水循環誌」と題して、「小学校から現在に至るまでの生活圏における水の様子を、風水害の時期や宅地造成による地質変化等の観点から分析し、各人が歩んできた自分誌を作成し、つなぎ合わせることによって、新たな発見がある。」という内容の講演があり、連絡会メンバーとの意見交換が行われた。 ■主な意見等 ・春の一斉調査だけでなく、秋に湧水や地下水調査を新河岸川流域で実施していただきたい。 ・1930 年代の水質データが研究室に残っているので、2030 年代に向けた比較研究を実施したいと考えており、連絡会メンバーの方に協力いただきたい。 ・瀑布線とは何か。 →滝線（地下に滝があることを示す線）のことである。 ・瀑布線の構造を教えてください。 →地下は、透水層と不透水層が重なってできており、不透水層が削られることで、発生する。 ・ボーリング調査をすることで、判断できるという理解で良いか。 →ボーリングデータを見ることでも判断できる。 ・不老川流域川づくり市民の会で井戸調査・自然環境に関する聞き取り調査を実施しており、不老川流域のある程度の部分についてはデータがある。データの活用方法を検討している。 ・川でつながる発表会の見学コースにも入っている七曲井では、井戸の地下水位と近傍の不老川の水位に差がある。講演の話であった不透水層が削られ水位が変化している事例の 1 つとも考えられるので、興味深かった。 →粘土層（不透水層）が薄い場所で造成工事等を実施すると水が抜ける可能性がある。最近では、認知されてきており、粘土層（不透水層）の復旧工事が実施されている。	
III. 情報交換	
・空堀川 秋の清掃活動 第 26 回クリーンアップ 11 月 21 日（土）9 時～ ◆平成 27 年度第 4 回連絡会開催について ・第 4 回新河岸川流域川づくり連絡会は、2 月上旬に開催を予定する。 以上	